

# クヌギなど苗木植え

## 大正堂 本店裏 親子連れら緑化活動

家員の大正堂（渋谷金隆社長）は26日、相模原市南区上鶴間本町の同社本店裏の斜面の緑化活動を行った。周辺の小学生らに参加してもらい、クヌギやコナラの苗木を植えた。

渋谷社長が東日本大震災被災地でのボランティア活動を行う中、横浜国大名誉教授宮脇昭さんの植樹活動などを知ったのがきっかけで、自社でも緑化の取り組みを始めた。

大正堂本店裏の斜面にクヌギなどの苗木を植える子どもたち  
＝相模原市南区上鶴間本町



国道16号そばに位置する同本店裏には、約1300平方メートルの斜面がある。以前は雑木や草やぶで覆われて人が入れず、使われなままになっていた。2年ほど前から草やぶを取り払うなどの手入れ

れをし、昨年11月には初めて同社幹部社員ら約40人が植樹を実施した。

この日は、周辺の親子連れ15人ほどが参加。将来はカブトムシが集まる森にしようとして、親子でクヌギとコナラの苗木20本を植えた。社会福祉法人進和学園（平塚市）でいのちの森づくりプロジェクトリーダーを務める川下都志子さんが講師役。川下さんによると、以前の草やぶのままだと、成長した森になるまで150年ほどもかかってしまうが、クヌギやコナラのほかにシイ、タブ、センリョウなどさまざまな苗木を植えることで、20～30年で立派な森にすることができるとい

う。参加した子どもたちは、洋服を泥だらけにして「楽しい」などと笑顔を見せながら苗木に触れていた。

（石本 健）